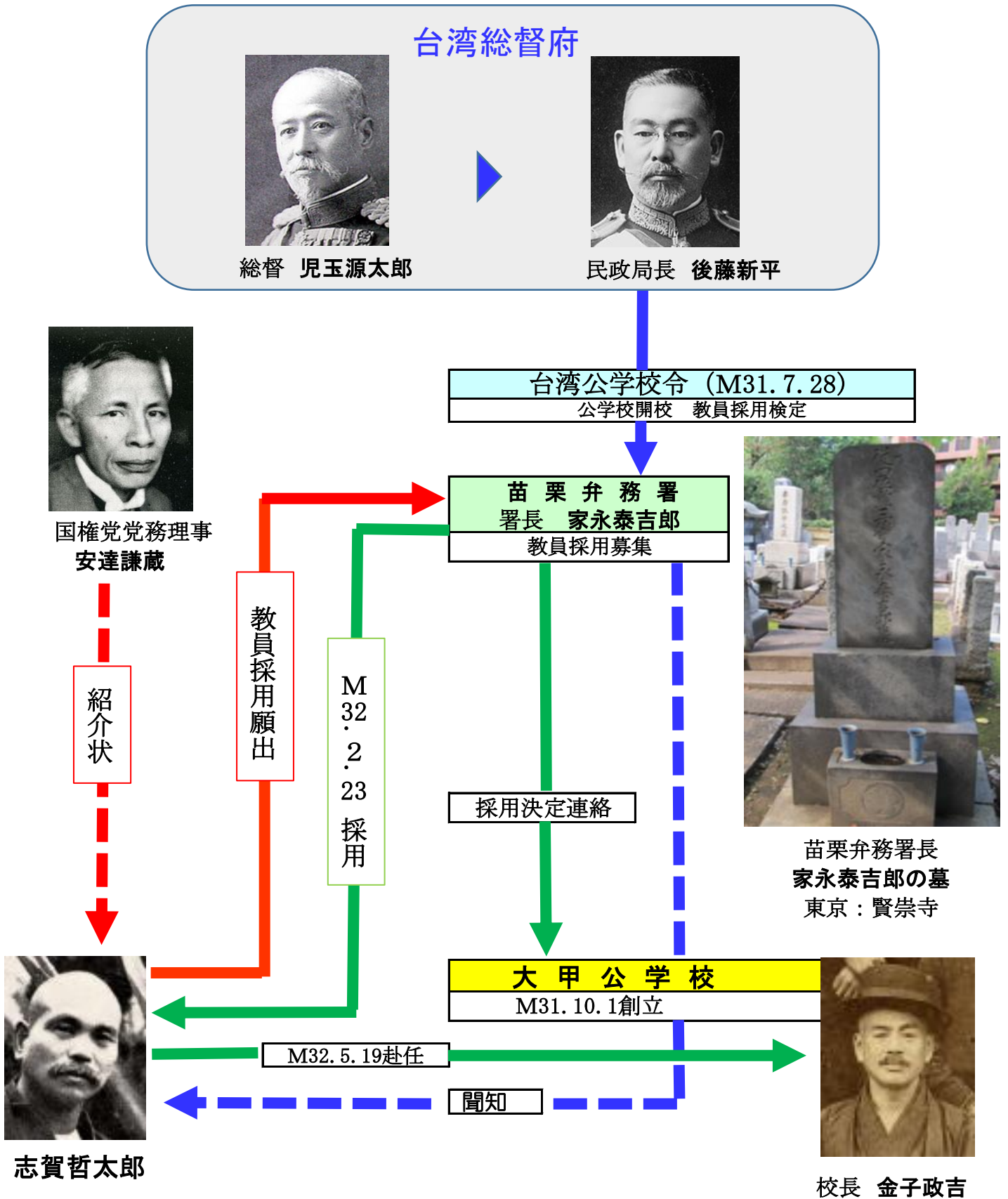


7 雇教員として採用される



哲太郎は、明治31(1898)年に公学校が開設されたことを機に、教育者に戻ることを決意しました。病が良くなると、いざという時に役立てようと賞っていた国権党党務理事・安達謙蔵の紹介状を持って、苗栗弁務署長・家永泰吉郎に面会し、教員採用を願い出ました。家永署長は、元国権党総理で台湾植民隊長古莊嘉門の部下であった人です。家永署長は哲太郎の学識、人柄にも問題はありませんでしたので「苗栗弁務署雇員」の資格で採用し、開校したばかりの大甲公学校への配属を命じました。